

臨床心理基礎実習Ⅱ

必修 1単位

稲垣 綾子・村上 香奈・張田 真美

1. 授業の概要(ねらい)

心理臨床家として心理療法や対人援助を行う上で、単に臨床心理学関連の理論や知識を得るのみではなく、体験学習を通してその理念や具体的技法を総合的に体得する必要がある。実際の臨床心理学的な対人援助は、基本的理論や知識を背景としながらも、個性や関係性を重視しながら多様に展開していく。

本大学院においては、心理臨床の実践家を育てるために、「臨床心理基礎実習」と「臨床心理実習」を重要な必修カリキュラムとして位置付けている。この「臨床心理基礎実習」は修士1年全員を対象とするものである。この実習を通じて、心理療法や対人援助の基本的考え方や技法の習得を目指す。これらの習得によって、実習生として実際にクライアントを担当し、臨床心理学的対応が可能となるレベルを目指す。

2. 授業の到達目標

この基礎実習の最終目標は、附属の心理臨床センターや学外の実習機関において、実際にクライアントへ対応できるレベルまで技能の向上を行うことである。この目標は当授業および実習に出席し毎回体験を積み重ねることで達成可能となるので、欠席しないようにコンディションを整えることが重要である。なお、心理臨床センターにおける実習に関しては、教員による評価をもって一定の基準を満たした者とする。

3. 成績評価の方法および基準

試行カウンセリング実習・課題40%、発表・ディスカッション・授業態度30%、センター実習30%

4. 教科書・参考文献

教科書

土居健郎著 『新訂 方法としての面接』 医学書院

鎗幹八郎著 『試行カウンセリング』 誠信書房

熊倉伸宏著 『面接法』 新興医学出版社

平木典子著 『カウンセリングとは何か』 朝日選書

5. 準備学修の内容

臨床心理基礎実習Ⅱ開始前に、課題図書を復習しておくこと。

実習形式の授業であるが、その準備・事後学修として種々の課題が呈示される。期限を守るとは勿論、関連文献に目を通すなどして、十分に取り組むこと。

6. その他履修上の注意事項

心理臨床家になるためには、単に授業に出席するだけではまったく不十分である。カリキュラムはあくまで最低限の考え方や体験を提供するものであり、それらをどのように深めていくか個人的に修練が必要となる。

心理臨床場面は常に未知の体験の連続である。知らないことへの探究心や研究の姿勢を持つことが重要となる。臨床心理学の研究のマインドを保ちながら、その基本となる姿勢をこの実習で身につけてほしい。

ゲストスピーカーを招くことがある。

この科目は臨床心理学専攻に特化した科目である。

7. 授業内容

- 【第1回】 ・センター運営実習の振り返り、試行カウンセリング実習ガイダンス
・センター陪席・ケース担当ガイダンス
- 【第2回】 ・試行カウンセリング実習・GSV1
- 【第3回】 ・試行カウンセリング実習・GSV2
- 【第4回】 ・試行カウンセリング実習・GSV3
- 【第5回】 ・試行カウンセリング実習・GSV4
- 【第6回】 ・試行カウンセリング実習・GSV5
- 【第7回】 ・試行カウンセリング実習・GSV6
- 【第8回】 ・試行カウンセリング実習ケースレポート・自己評価、劇としての面接(Ch.8)
・見学陪席実習・カンファレンス@センター
- 【第9回】 ・プレイセラピーの基礎と実践
・プレイルームの使い方@センター
- 【第10回】 ・箱庭療法の基礎と実践
・箱庭療法実習
- 【第11回】 ・家族療法の基礎と実践
・ジェノグラムワーク
- 【第12回】 ・家族療法ロールプレイ
・家族の問題(Ch.7)
- 【第13回】 ・心理臨床と地域連携・多職種連携
・児童虐待事例における心理職のしごと—その役割と多職種連携(ゲストスピーカー)
- 【第14回】 ・産業臨床の基礎と実践
・産業臨床・ワーク
- 【第15回】 ・幼稚園WISC実習・事前学修